

平成三十年度から「愛知工業大学名電中学校」

愛知工業大学附属中学校の校名が、平成三十年度から「愛知工業大学名電中学校」に変わります。名古屋電気学園理事会で決定し、中高一体の教育をさらに充実させていきます。

附属中学校は、名電高等学校中高一貫コースとの六年一貫教育のもと、学習面や学校行事、部活動面で生徒一人一人の持ち味や良いところを生かし、その個性をさらに伸ばすことにより、将来、社会の第一線で活躍するために必要となる人間力の育成を目指してきました。こうした取り組みをさらに充実させていくため、学園の中学・高校・大

Meiden で中高一体に



来春から校名を一新する中学校

るため、中学と高校が『愛工大名電 (Meiden)』の名のもとに一体となって、さらに活力と魅力にあふれた学校となるよう全力で取り組んでいきます」と話しています。

「節目の時間を新たな時代に即した学校づくりの契機とする」と話しています。

学がそれぞれの特色や役割を生かし合い、相互の連携をより深めていくことが必要となっています。

四氏に名誉教授の称号を授与

学園は七月四日、愛知工業大学名誉教授の称号を江口一彦氏(元工学部電気学科教授)、戸伏壽昭氏(元工学部機械学科教授)、石垣尚男氏(元経営学部経営学科教授)、鬼頭繁治氏(元情報科学部情報科学科教授)の四氏に贈り、本学に対する顕著な功績を称えました。名誉教授となられた方々は累計で七十八人となりました。

江口一彦氏



戸伏壽昭氏



石垣尚男氏



鬼頭繁治氏



祝福の挨拶をする後藤泰之理事長

称号授与式は、学園と大の幹部が出席して八草キャンパス本部棟で行われました。後藤泰之理事長が一人ひとりに名誉教授の辞令書を手渡した後、挨拶で

「学園が大きく変わる時代に、皆様にご尽力いただきました」と各氏の業績・活動をねぎらい、「新たな視点から愛知工業大学にご助言をいただければ」と呼び掛けました。これにちなみ、四氏が一人ずつお礼の言葉を述べ、この後の懇談で和やかに近況などを語り合いました。



愛知工業大学
愛知工業大学情報電子専門学校
愛知工業大学名電高校
愛知工業大学附属中学校

目次:

中高が卓球制覇	2
ロボカップに参加	3
工大サミット開く	4
就職の強さ今年も	4
オープンキャンパス	5
インタハイで活躍	6
最多40回目の全国	7

発行所

名古屋電気学園

〒470-0392

豊田市八草町八千草1247

TEL (0565) 48-8177

高校卓球部が二年連続でインターハイ完全制覇



昨年に続き完全制覇を成し遂げた高校卓球部 (写真提供：ニッタクニュース)

愛工大名電高校卓球部が、今夏のインターハイでも学校対抗・シングルス・ダブルスの全種目で優勝を成し遂げました。インターハイ完全制覇は昨夏に続いて二年連続。さらに主将の木造勇人選手(三年)は、名電として一九六八年の内藤良司選手以来四十九年ぶりとなる高校三冠(全種目優勝)を達成しました。卓球名電の輝かしい歴史に、また新たな一ページが加わりました。

インターハイ卓球競技は七月二十九日～八月二日に福島県の郡山総合体育館で

開かれ、学校対抗の決勝は遊学館(石川県)との対戦になりました。

一番の宮本春樹選手(三年)は1-2と相手にリードを許したものの、第四ゲームから粘りをみせて逆転勝利。続く二番シングルスも、三番ダブルスまで連続で戦う木造選手が「あとは自分が全部勝つ」の気迫で臨み、3-0で完勝しました。

優勝に王手をかけたダブルスは、木造・高見真己選手(三年)ペアが粘る相手を3-1で振り切りました。

木造選手は高校三冠

シングルス決勝は、準々決勝で高見選手、準決勝で田中佑汰選手(二年)の名電勢を連破した野田学園(山口県)の戸上隼輔選手と木造選手の対戦になりました。第一ゲームから競り合う展開となり、ここの一番で強さを発揮した木造選手が3-1で勝って二年連続で高校生の頂点に立ちました。



三冠を達成した木造勇人主将 (写真提供：ニッタクニュース)

ダブルスの決勝は、三年生の木造・高見ペアと、二年生の田中・一年生の加山裕選手のペアによる名電同

士の対戦になりました。田中選手は昨夏は高見選手と

組んでダブルスを制しており、連覇を目指して加山選手と果敢に攻めました。木造・高見ペアが先輩の意地を見せて3-1で優勝を収めました。

高校卓球部は、春の選抜と合わせ、これで行った全国大会四連勝。今枝一郎監督は「これまでで一番プレッシャーを感じた大会でした。学校対抗は後半勝負

中学卓球部も全中五連覇、全国大会十連勝

附属中学卓球部は大分県別府市で八月二十二～二十五日に行われた全国中学校卓球大会で、団体戦五連覇を飾りました。通算十一回目の全中優勝で、春の選抜と合わせると全国大会十連勝となりました。

団体戦の決勝では昨年と同じ相手の野田学園(山口県)と対戦しました。一番の篠塚大登選手(二年)と二番の曾根翔選手(三年)が連勝して優勝に王手をかけましたが、接戦となった三番ダブルスと四番シングルスをともし落としまし



全中五連覇を飾った附属中卓球部 (写真提供：ニッタクニュース)

た。最後は主将の横谷晟選手(三年)が序盤から相手を圧倒し、気迫のプレーでチームを五連覇に導きました。

のオーダーを組んだ遊学館に対し、カギを握る一番の宮本が素晴らしい逆転勝利を見せてくれました。また、一回戦からストレートで勝ちあがってきた中で唯一の黒星となった準々決勝での木造の敗戦により、チームの団結が強まった側面もありました。ぎりぎりの状態で戦いながら最高の結果を出した木造をはじめ、選手たちは皆レベルアップし、本当によく頑張ってくれました」と振り返りました。

また、個人戦では曾根選手が準優勝、谷垣佑真選手(二年)と鈴木颯選手(一年)が三位、横谷選手がベスト8入りの成績を収めました。

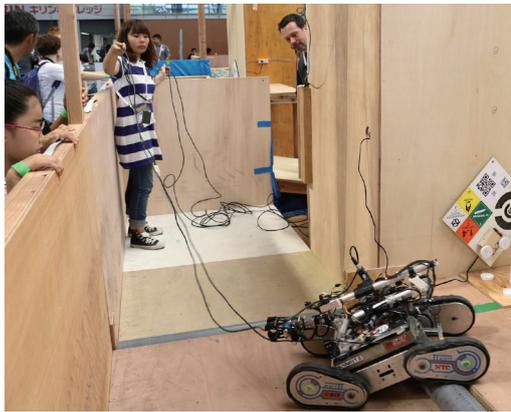
同部の真田浩二監督は「個人戦ベスト8決定の際、四人が接戦で敗れました。ベスト8独占も実現するかどうかというところで、逆に負けて課題が明確になりました。勝っていたら、喜んで帰って終わりだったと思います。次へステップするために何をすべきかが分かったので、選手とともに終わってすぐに前向きになりました」と話しています。

「ロボカップ2017名古屋世界大会」に参加

ポートメッセなごやを主会場に七月二十七〜三十日の四日間にわたって繰り広げられた「ロボカップ2017名古屋世界大会」では、本学の教員・学生たちが競技やイベントに参加したほか、運営面でも大きな役割を果たしました。

本学から競技に参加したチームは、レスキューロボットリーグのAIT Pickers

(機械学科奥川雅之研究室)とレスキューシミュレーションリーグのNATO Rescue (情報科学科伊藤暢浩研究室)。さらにレスキューロボットリーグのメジャー部門とジュニア部門の橋渡しとなる競技として



競技に取り組む AIT Pickers

名古屋世界大会では、

初開催されたラピッドリーマンユフアクチャードロボット競技にも一チームが出場しました。学生たちは、試験期間と大会が重なる不運もあって狙い通りの結果を出すには至りませんでした。各国の強豪のレベルの高さと研究に取り組む姿勢に刺激を受けた様子でした。

大会のイベントでは「ロボット技術・産業フェア」に「愛知工業大学ロボットミュージアム」としてブースを出展し、学生たちがAI T 鉄人プロジェクト、古橋秀夫研究室(電気学科)、内田敬久研究室(機械学科)の研究成果の説明に当たりました。会場内では水野慎士研究室(情報科学科)によるインタラクティブコンテンツ「お絵描きストリート」のデモ展示や、客員教授・九代玉屋庄兵衛氏によるからくり人形実演もあり、夏休みの親子連れらの人気を集めました。

機械学科の奥川雅之教授、情報科学科の伊藤暢浩教授と水野勝教授が開催委員会競技専門部会に参加。約四十の国・地域から三百八十八チームが集い、約十三万人が来場した大会の成功に貢献しました。

このほか、七月三十一日に愛知大学名古屋キャンパスで開催されたロボカップ

機械学科の奥川雅之教授、情報科学科の伊藤暢浩教授と水野勝教授が開催委員会競技専門部会に参加。約四十の国・地域から三百八十八チームが集い、約十三万人が来場した大会の成功に貢献しました。



人気を集めた「お絵描きストリート」



愛工大ロボットミュージアムのブース



国際シンポジウムで発表する 鷹見峻希さん

の国際シンポジウムでも、本学・愛知大学・理化学研究所が協同で進めた「災害救助シミュレーションの研究・開発の効率化を実現するシステム」に関する研究が採択され、本学大学院経営情報科学研究科博士前期課程二年の鷹見峻希さんが口頭発表を行いました。

AIテーマにテクノサロンの大学総合技術研究所は七月二十一日、AI T テクノサロンを研究所内の視聴覚室で開きました。九回目の今年は「情報科学とAI」をテーマとし、情報科学科の三教授が最新の話題を提供しました。

地域の企業経営者ら約四十人が参加し、初めに鈴置保雄所長が企業・大学の双方の連携の発展を願って挨拶しました。

一件目の話題は、伊藤雅

教授による「コンピュータ囲碁の最前線」。グーグル傘下の英国ディープマインド社が開発した囲碁AIソフトウェア「アルファ碁」について、動作原理の基本を解説しました。続いて鈴木晋教授が「自然言語処理と情報検索」と題し、自然言語処理の基本的技術と、その応用となる質問応答システム、ウェブ検索システムの仕組みなどを紹介しました。最後に伊藤暢浩教授が「人工知能とRobot Cup」と題し、人工知能技術のランドマークプロジェクトであり七月二十七〜三十日に名古屋で世界大会が開催されるロボカップについて述べました。



質疑応答も活発に行われた AIT テクノサロン

第一回工大サミット開く

本学を含む私立五工大（愛知工業大学、大阪工業大学、芝浦工業大学、広島工業大学、福岡工業大学）が連携する「工大サミット」のキックオフイベントとなる「第一回工大サミット」（文部科学省、経済産業省、大阪府ほか後援）が六月二十四日、大阪工業大学梅田キャンパスOIT梅田タワーで開かれました。

物的資源を最大限活用し、国際社会で通用する工学知識を持った、イノベーションを創造できる人材育成に寄与したい」とサミットとして取り組むべき課題を話しました。

パネルディスカッションでは、イノベーション（技術革新）を起こす人材の育成が中心的な議題となり、曾我部副学長は本学で二〇〇九年と二〇一四年に

各大学の学長らが出席し、本学からは後藤泰之学長の代理として曾我部博之副学長が出席しました。各学長らによるプレゼンテーションとパネルディスカッションなどがあり、プレゼンテーションでは、曾我部副学長が「各大学の人的・



五工大の学長らによるパネルディスカッション

学生主体で取り組んだ映画製作を例に挙げて「宣伝用のウェブページや劇中のCG作成などを通じ、学生たちは世の中に提供する作品を作ることの難しさを知り、現実の社会で工学や技術がどのように利用され、展開されるかを実感できた」などと述べました。出席者から、イノベーションを目指す学生・教員同士の交流を求める声も出され、活発に意見交換しました。

プロジェクト共同研究十六件の成果を報告
 第十一回目となる愛知工業大学シンポジウム（平成二十八年年度プロジェクト共同研究成果報告）が六月十六日、総合技術研究所視聴覚室で開かれました。産学連携研究推進事業の一環として平成二十八年度には十九件のプロジェクト共同研究が進められた中で、十六件の研究成果について報告がありました。

「就職に強い大学」今年も
 今春の本学卒業生の就職状況は、全国四位と引き続き好成績を維持しました。サンデー毎日八月六日号に掲載された全国二四〇大学の実就職率ランキングによると、卒業生数一〇〇〇人以上の大学の中で本学は実就職率97・1%（昨年96・4%以下同じ）で全国四位、私大では三位、東海地区では二位でした。

「就職に強い大学」今年も
 実就職率は、就職率と就職者÷（卒業者－進学者）と計算するため、就職者を就職希望者で除した内定率に比べ、数値が低くなる傾向がありますが、大学本来の就職力を表す数字としてメディアで使われます。



多岐にわたった共同研究成果の報告

に質疑が交わされました。企業と共同で研究に取り組むプロジェクト共同研究は本学独自のマッチングファンドで、公募のうえ採択した研究を総合技術研究所が支援します。企業から提供された研究経費と同額、または全額を本学が助成し、毎年のシンポジウムで成果を報告しています。

一方、本学キャリアセンタ―が五月八日付でまとめた内定状況調査（確定版）によると、内定率は三学部合計で98・8%（98・0%）で、学部別では工学部99・3%（98・7%）、経営学部97・0%（95・8%）、情報科学部98・1%（97・1%）と、いずれも昨年を上

※「サンデー毎日」のデータは大学通信調べ

夏のオープンキャンパスに最多の五四七三人

七月二十二、二十三日の両日、大学の夏のオープンキャンパスが八草・自由ヶ丘の両キャンパスで開催されました。二日間の来場者は過去最多の五四七三人に上り、それまでの過去最多だった昨夏の三七九七人を大幅に上回って高校生らの関心の高さを示しました。

両キャンパスを合わせて各専攻の学生たちによる七十以上のデモンストレーションがあり、訪れた高校生や保護者が日ごろの研究成果に触れました。学生たちの熱意が伝わる対応が好評を博し、立ち会った指導教員は「理解してもらおうとする工夫が、学生にとっても勉強になる」と話して



機械学科のデモで打ち上げられるロケット



人気を集めた理工系ガール専用ブース

いました。

八草キャンパスでは増加傾向にある「理工系ガール」のため、今年も専用ブースなどが設けられました。また在学生による各専攻相談や、入試センターによる入試相談などのコーナーも人気を集めました。自由ヶ丘キャンパスでは恒例の「自由ヶ丘キャンパス祭」が同時開催され、学生のバンド演奏などが近隣の住民を迎えてにぎやかに繰り広げられました。

『高大連携』に四六八人

高校生が大学での勉強を体験し、進路選択の一助にする「愛知工業大学 高大連携プログラム（ワークショップ入門講座）」が大学の八草キャンパスと自由ヶ丘キャンパスで七月二十九、三十日に開かれました。連携協定を結ぶ春日井西、岡崎東、南陽高校など十九校と名電高校から、合わせて四百六十八人の高校生が特別講義を受けました。この講義は愛工大に入学した場合、一定の条件をクリアすれば単位として認定されます。

八草キャンパスでは、両日とも午前は全学年共通講座が開かれました。二十九日は工学部電気学科の雪田和人教授が「2030年における電力システム（電力の生産、輸送、配分、消費）を考えてみよう！」と題し、受講する高校生たちが三十歳になるころに電力の生産から消費までのシステムがどのように変わっているかをともに考えました。三十日は工学部建築学科の武田美恵准教授が「生活を楽しくするデザインとは」と題

し、心をワクワクさせるデザイン発想のヒントを紹介しました。会場では、メモを取りながら熱心に講義を聴く生徒の姿が見られました。



特別講義で高校生に語りかける雪田和人教授

午後の選択講座では「黄金比とヒトのプロポーション変化」「中国語の中の日本語」「情報技術で読み解く名古屋地下街物語」「3次元プリンターを用いた『おもしろものづくり』」などの多彩な講義を受講しました。

自由ヶ丘キャンパスでは「コンビニ・レストラン経営の『もったいない』を考える」「自分たちでビジネスをつくり出すための体験プログラム」の二講座が開かれました。

階層別に事務職員研修 学園の平成二十九年度事務職員研修が六、八月にかけ、三階層別（管理職・中堅職員・事務主任以下）に八草キャンパス本部棟で開催されました。職員の能力・資質を向上させるためのSD研修が二十九年度から義務化されたのに伴い、特に事務職員の論理的思考力養成を目的としています。

六月二十六日に開かれた管理職対象の研修では、研修会社「プレセナ・ストラテジック・パートナーズ」（東京）の富沢裕司氏が講師を務めました。参加した三十二人は六グループに分かれ、ワークショップ形式で研修を受けました。

富沢氏は「細かな情報ではなく考え方が重要」として、報告書や意見・提言などを分かりやすくまとめる「論理の構造化」について説明しました。参加者は教材として出された悪い例の文章などを参照しながらグループごとに問題解決のポイントを洗い出し、①情報を要約する②縦の論理を繋ぐ③横の論理を網羅する④の留意すべき三つの点について理解を深めました。

今夏の全国大会もそろって活躍 中高フェンシング部



尾矢陽太選手

愛工大名電高校と愛工大附属中学校のフェンシング部が、今夏の全国大会でもそろって活躍しました。

八月一〜四日に宮城県気仙沼市で行われた全国高校総体のフェンシング競技では、男子個人サーブルに出場した尾矢陽太選手(二年)が優勝しました。名電高校として、同種目で昨年に続き二連覇を達成しました。

尾矢選手は、準決勝で尾矢選手とともに十七歳以下の日本代表に選ばれている森多諒選手(柳井学園高)と対戦。強みである「自由なアイデア」を出し続けることで相手の戦術を上回り、15-13で決勝へコマを進めました。決勝は昨年同種目で三位に入っている上野優斗選手(別府翔青高)と対戦、最後まで集中力を切らさず15-5と圧倒し、優勝を決めました。

七月二十二〜二十四日に東京の駒沢オリンピック公園で行われた第三回全国中



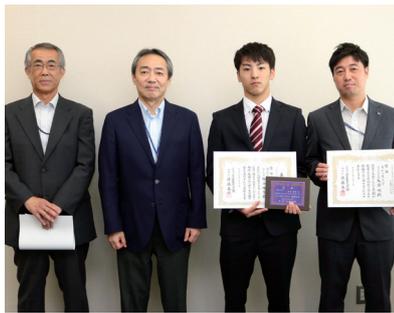
団体二連覇の附属中チーム

学生フェンシング選手権大会では、男子団体で愛工大附属中が昨年に続いて優勝しました。試合に入ると、個人戦でフルーレ、サーブルともに

三位入賞を果たした太田拓輝選手(三年)を中心にチームが一丸となりました。決勝で、はしまモアフェンシングクラブ(岐阜県)との東海対決を制し、二連覇を達成しました。

このほか今夏の全国高校総体では、バレーボール部が三十一年ぶりに三位入賞、相撲部が団体ベスト8、水泳競技部の若林佑希子選手(二年)が飛板飛込で三位入賞と活躍しました。

松山選手の国際大会優勝に対し学園表彰



表彰された松山選手(右から二人目)ら

松山選手は、一回戦で対戦した第一シードのセラシメンコ選手(カザフスタン)を3-1で下し、順当に決勝に進みました。決勝戦は、イスマイロフ選手(ロシア)に二ゲームを先制されてから二ゲームを取り返す接戦に。最終ゲームでは相手に二度のマッチポイントを許しながらも逆転し、ワールドツアー二十一歳以下

大学男子卓球部の松山祐季選手(経営学科一年)がITTFチャレンジ・スロベニアオープン(四月二十六〜三十日)の二十一歳以下の部で優勝したこと

対する学園表彰が、七月十一日に八草キャンパス本部棟で行われました。松山選手は、一回戦で対戦した第一シードのセラシメンコ選手(カザフスタン)を3-1で下し、順当に決勝に進みました。決勝戦は、イスマイロフ選手(ロシア)に二ゲームを先制されてから二ゲームを取り返す接戦に。最終ゲームでは相手に二度のマッチポイントを許しながらも逆転し、ワールドツアー二十一歳以下の部で初となる優勝を獲得

インカレ卓球 男子は三位

第八十七回全日本大学総合卓球選手権大会(団体の部)は七月六〜九日、北海道立総合体育センターで開催、大学男子卓球部は三位入賞、大学女子卓球部は六位入賞の成績でした。男子は二年ぶり七回目の優勝を逃しました。女子は四年連続ベスト8となりました。男子は準決勝で専修大学と対戦し、吉村和弘選手(経営学科三年)が勝利しましたが、惜しくも力及ばず1-3で敗退しました。



木造選手 (ITTF提供)

高校卓球部の選手も、六〜七月にアジア各地で開かれた国際大会で見事な成績を収めました。

三年生の木造勇人選手は、ITTFワールドツアー プラチナ・中国オープンの男子ダブルスで張本智和選手(JOCエリートアカデミー)とペアを組んで準優勝しました。準決勝では、今年の世界選手権で金メダルのペアとなった中国の樊振東選手(世界ランキング二位)／許昕選手(同三位)を破る大金星を挙げました。

木造選手は、同大会の二十一歳以下の部では優勝を勝ち取ったほか、韓国で開かれたアジアジュニア選手権のジュニア男子シングルスで準優勝しました。三年生の高見真己選手も、ITTFワールドツアー プラチナ・ジャパンオープンの二十一歳以下の部で三位の成績を収めました。

高校吹奏楽部が四十回目の全国大会出場へ

八月二十七日に長野市で開かれた東海吹奏楽コンクールで高校吹奏楽部が金賞を獲得し、十月二十二日に名古屋国際会議場で開かれる全国大会に四十回目となる出場（高校部門全国最多）を決めました。

一方、同部のサマーコンサートは七月十四日に瀬戸市文化センター文化ホール、同十九日に名古屋国際会議場セリニョーホールで、それぞれ開かれました。両会場ともプログラムは三



演出にも工夫を凝らしたサマーコンサート

部構成で、百八十人の部員が織りなす華やかな演奏が会場の吹奏楽ファンを魅了しました。
単独公演としては初となる瀬戸市の会場では、顧問の伊藤宏樹教諭が「この素晴らしいホールで演奏したいという夢がかないました」と挨拶。伊藤教諭の指揮により、第一部と第二部では「マーチ・シャイニング・ロード」など二〇一七年度全日本吹奏楽コンクール課題曲の三曲や「富士山〜北斎の版画に触発されて〜」（真島俊夫作曲）「宇宙の音楽」（P・スパーク作曲）を演奏し、楽曲の世界観を情感豊かに表現しました。
第三部は、夏休みをテーマにした愉快的な演出が次々と登場する「サザエさん ア・ラ・カルト」など、凝った内容。豪雨災害に襲われた九州北部にエールを送った「花は咲く」の演奏では、客席を埋めた吹奏楽ファンも配られた歌詞カードに目を落とし、熱心に歌声を重ねました。

学校祭に「くまモン」来場



中高一貫コース学校祭初日の六月九日、集会の会場になった若水キャンパス淳和記念館で、生徒たちが熊本からやってきたくまモンと交流しました。

くまモンは、生徒有志が取り組んでいる「熊本復興支援プロジェクト」への返礼を兼ねた「飛び入り参加」。集会で、プロジェクトに取り組む六年生の尾崎陸斗君らが活動報告をして、最中、会場後方からサプライズ登場しました。生徒たちの大歓声に迎え



トークショーに参加した駒木龍（中）と大司

られ、ステージが上がったくまモンは、熊本の名物やおすすすめ観光地などをPRしたのに続き、「くまモン体操」への参加を呼び掛けると、たくさんの生徒がテーマソングに合わせてステージで一緒に飛び跳ねました。
最後に、生徒たち全員でくまモンを囲んで記念撮影しました。写真。
名電出身の親方・力士と「名電出身の親方・力士を励ます会」が七月十六日夜、若松親方（元朝乃若）、山分親方（元武雄山）と三段目力士として名古屋場所所に臨んだ駒木龍（木瀬部屋）、大司（入間川部屋）を迎え、名古屋市内のホテルで開かれました。

開く「励ます会」の呼び掛け人であり、昨年十月一日に急逝した相撲部前監督の澤田勉先生に全員で黙とうを捧げ、励ます会は始まりました。若松、山分両親方から、インターハイに出場する高校相撲部の後輩たちに激励賞が贈られた後、親方、力士たちが近況を報告しました。ともに二勝二敗の成績で名古屋場所を折り返した駒木龍と大司は「澤田先生から教えてもらったことを今後も続けていけるように精進します」などと誓いました。
この後、相撲部屋の力士の生活などをテーマにトークショーが繰り広げられ、日ごろ相撲協会の仕事と弟子の指導に追われる親方たちもリラックスした笑みを浮かべていました。

毎年名古屋場所所中日に
高校元教諭の綿先生が逝去
愛知工業大学名電高校元教諭の綿勇夫先生が八月二十七日に逝去されました。九十一歳でした。綿先生は昭和二十九年十二月に本校教諭となり、平成五年三月に定年退職しました。その後、平成七年三月まで非常勤講師を務めました。

【平成28年度決算の概要】

学校法人名古屋電気学園の平成28年度決算の概要は、以下の通りです。

資金収支計算書 (会計年度に行った諸活動に対応する全ての収入と支出の内容と当該年度に係る支払資金の収入と支出のてん末を明らかにしたもの)

「収入・支出の部合計」は241億4千万円となり、「施設関係支出」には、大学セントラルテラスの建設費用等が含まれています。

事業活動収支計算書 (経常的な収支と臨時的な収支を区分し、経常的な収支は、更に教育活動収支と教育活動外収支に区分することによって、それぞれの収支状況を明らかにしたもの)

「教育活動収支差額」と「教育活動外収支差額」を合算した「経常収支差額」は、△2億8千万円となり、これと「特別収支差額」の9千7百万円を合計した「基本金組入前当年度収支差額」は、△1億8千万円となりました。

「基本金組入額」10億2千万円を組入れた後の「当年度収支差額」は△12億1千万円となり、これに「前年度繰越収支差額」と「基本金取崩額」を合算した「翌年度繰越収支差額」は△9億6千万円となりました。

貸借対照表 (年度末における資産、負債、純資産の財政状態を表すもの)

「資産の部合計」は633億9千万円、「負債の部合計」は、62億3千万円、基本金に繰越収支差額を合算した「純資産の部合計」は571億6千万円となりました。

詳しくは、名古屋電気学園ホームページの「事業報告・財務状況【名古屋電気学園・学園データ】」をご覧ください。

資金収支計算書

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)
(単位：千円)

収入の部		決算
科目		
学生生徒等納付金収入		8,979,378
手数料収入		401,946
寄付金収入		66,954
補助金収入		1,362,051
資産売却収入		103,109
付随事業・収益事業収入		294,364
受取利息・配当金収入		32,693
雑収入		410,744
借入金等収入		0
前受金収入		1,827,696
その他の収入		533,097
資金収入調整勘定	△	1,933,514
前年度繰越支払資金		12,060,244
収入の部合計		24,138,762
支出の部		決算
科目		
人件費支出		6,513,941
教育研究経費支出		2,486,392
管理費支出		814,150
借入金等利息支出		10,403
借入金等返済支出		258,378
施設関係支出		1,375,989
設備関係支出		435,445
資産運用支出		131,782
その他の支出		627,097
資金支出調整勘定	△	533,505
翌年度繰越支払資金		12,018,690
支出の部合計		24,138,762

事業活動収支計算書

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)
(単位：千円)

教育活動収支	科目		決算
	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	8,979,378
	手数料	401,946	
	寄付金	66,954	
	経常費等補助金	1,348,354	
	付随事業収入	294,364	
	雑収入	409,509	
	教育活動収入計	11,500,505	
支事業の活動部	人件費	6,525,698	
	教育研究経費	4,293,372	
	管理経費	984,477	
	徴収不能等	0	
	教育活動支出計	11,803,547	
	教育活動収支差額	△ 303,042	
教育活動外収支	科目		決算
	収入の部	受取利息・配当金	32,693
		その他の教育活動外収入	0
		教育活動外収入計	32,693
支出の部	借入金等利息	10,404	
	その他の教育活動外支出	0	
	教育活動外支出計	10,404	
	教育活動外収支差額	22,289	
経常収支差額			△ 280,753
特別収支	科目		決算
	収入の部	資産売却差額	3
		その他の特別収入	135,879
		特別収入計	135,882
支出の部	資産処分差額	27,611	
	その他の特別支出	11,052	
	特別支出計	38,663	
	特別収支差額	97,219	
基本金組入前当年度収支差額			△ 183,534
基本金組入額合計			△ 1,024,596
当年度収支差額			△ 1,208,130
前年度繰越収支差額			△ 8,549,249
基本金取崩額			108,000
翌年度繰越収支差額			△ 9,649,379
(参考)			
事業活動収入計			11,669,080
事業活動支出計			11,852,614

貸借対照表

(平成29年3月31日)

(単位：千円)

資産の部		決算
科目		
固定資産		51,004,668
流動資産		12,394,061
資産の部合計		63,398,729
負債の部		決算
科目		
固定負債		3,363,721
流動負債		2,869,648
負債の部合計		6,233,369
純資産の部		決算
科目		
基本金		66,814,739
繰越収支差額		△ 9,649,379
純資産の部合計		57,165,360
負債及び純資産の部合計		63,398,729